

# e-dream-s 通信

No. 123 発行：2011年7月10日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

7月2, 3日に行なわれた理事会の報告が満載です。特に「教科書支援プロジェクト」にご注目下さい。来年2月の「CamTESOL2012 ツアー」募集要項もお見逃しなく。5月に来日されたソルトレイク・コミュニティカレッジの笠井先生からのお便りも届いています。どうぞお楽しみ下さい。

## 目次

- |                                |       |       |
|--------------------------------|-------|-------|
| 1. 第36回理事会を終えて                 | 中川 房代 | p. 2  |
| 2. 小さな扉、広い道                    | 辻 荘一  | p. 5  |
| 3. 中国人大学生の関心                   | 井川 好二 | p. 6  |
| 4. 七月七日の朝夢                     | 飯田 佐恵 | p. 11 |
| 5. カンボジア教育支援の始まり、そしてこれから生まれるもの | 塚本 美紀 | p. 12 |
| 6. 思いがけないカルチャーショック             | 笠井 進  | p. 13 |
| 7. カンボジア教科書支援プロジェクトへのご協力をお願い   |       | p. 14 |
| 8. 「CamTESOL2012 ツアー」募集要項      |       | p. 15 |
| 9. お知らせ                        |       | p. 16 |



理事会参加者、7月3日「浜名湖湖畔弁天島 山本亭」前にて（後列左から藤澤理事、仙崎さん、井川顧問、辻代表理事、飯田理事、岡田、Brian Nuspliger 理事、前列左から中川副代表理事、河野さん、田辺さん、山田理事、塚本理事、Sokhom Leang 理事）

# 第 36 回理事会を終えて

中 川 房 代

先週末の 7 月 2 日（土）～3 日（日）に理事会を開催した。理事会も今回で 36 回を数えるのだが、理事会記録簿を眺めてみると、実に様々な地域・会場で開催してきたことに驚く。もちろん本部のある大阪が一番多く 16 回、あと、神戸（5 回）、京都（5 回）と続き、東京（2 回）、名古屋、京丹後（京都）、広島、西宮（兵庫）、徳島。そして、何と、モンゴル、韓国と海外でも開いてきた。

理事会開催の開催場所は、実は、その時々々の e-dream-s の活動と重なっている。e-dream-s の教育用写真サイト@aglance 事業を始めたのは、モンゴルツアーで撮影した写真がきっかけであったし、韓国の英語教師との研修プログラム ECAP を行っていた当時は韓国でも開催した。ECAP を東京で開催することになった年には、東京で理事会を持った。カンボジアプロジェクトを本格的に着手するにあたり、カンボジア留学生のソコムさんの住む名古屋で理事会を開催し、論議に加わってもらった。それが、その後のカンボジアプロジェクトの進展に大きく寄与したのである。

そして、今回は静岡県浜松市。なぜかと言うと、個人的ではあるが、浜松周辺は私が生まれ育った地域で、いつかは浜松で開催したいと何度も言いながら、これまで様々な条件や理由からなかなか実現に至らなかったからである。今回の理事会の計画をする際、この理事会を節目の会議にしたいと思っていた。e-dream-s は、設立後 10 年が過ぎ、今や、e-dream-s は次の段階に進むべきだと思ったからである。

幸い、今年 2 月カンボジア英語教育学会 CamTESOL2011 後の学校訪問やコンタクトの人々との会合で、カンボジアプロジェクトの見通しがたち、5 月ゴールデンウィークのカンボジア訪問で、この秋の英語教科書支援プロジェクト開始を決定することができた。既に私たちは大きな成果を手に行っている。遂に、念願だった教育支援プロジェクトが始まる。そんな記念すべき理事会には、浜松が相応しいと思った。

（というような訳で、個人的な意味も含め、浜松理事会が実現することになったのである。）

肝心の論議については、主に 3 つの議題を設定していた。1 つは言うまでもなく、カンボジアプロジェクトについて、2 つめは、e-dream-s のホームページや教育用写真サイト@aglance に関わる提携の企画について、3 つめは東日本大震災復興支援プロジェクトについて、である。以下、論議の結果を箇条書きにまとめてみる。

## 1. カンボジア・プロジェクト（英語教科書支援プロジェクト）

Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School（Ponleu さんの父親が校長）の全生徒 1,591 名への英語の教科書の支援。

(1) 教科書 1 冊 100 円として、1 口 100 円の資金提供（募金）を募る。7 月末まで。

（今年は主に e-dream-s 会員で募金を行い、来年度以降は、会員以外にも広く呼びかける。）

(2) 集まった資金で英語の教科書を購入し、学校の図書館に配置し、生徒への貸与を行う。

(3) e-dream-s 代表理事及び会員が 10 月初めに開催される Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School での「教科書贈呈式典」へ参列し、教科書を贈呈する。

## 2. e-dream-s のホームページや教育用写真サイト@aglance に関わる提携の企画について

(1) 他社から、教育用写真サイト@aglance との提携や e-dream-s / ACROSS の活動内容に関連する企画が持ち上がっている。交渉は辻代表理事が担当し、随時、理事に報告し、必要事項は承認を得る。

(2) それに伴って、e-dream-s のホームページの刷新を行う。まず見積もりをとる。

担当は辻代表理事。

## 3. 東日本大震災復興支援プロジェクトについて

・ 4 月にプロジェクトに関する募集を行ったが、現地のリサーチが必要。できれば具体的に、1 つの学校現場などからのニーズを知りたい。

・ 岡田理事を中心に、現地の教師などと連絡をとり、具体化する。7 月末まで。

## 4. その他

(1) 次期、e-dream-s 役員の改選について

（任期：2011 年 9 月 1 日～2013 年 8 月 31 日）

・ 7 月末までに理事・監事の立候補を募る。

・ 8 月 28 日第 37 回理事会で理事会推薦候補を選出し、第 12 回会員総会で決定する。

(2) CamTESOL 2012 カンファレンスツアー参加者募集について

・ 期間：2012 年 2 月 24 日（金）～2 月 27 日（月）（これ以外の旅程もあり）

・ 費用（予定）：12 万円

（航空券、宿泊費、カンファレンス参加費、食費を含む）

・ 発表者参加申し込み：締切 8 月 14 日（日）、塚本理事まで

（以上、報告）

理事会から帰ってきて、理事会参加者に送ったメール、私はこう書いた。

1泊2日の浜松理事会、お疲れさまでした。教科書プロジェクトを始め、様々なプロジェクト・企画が始動し、e-dream'sの転機となる「歴史的な理事会」になったと思います。

「歴史的」というのは、理事会の開会で辻代表理事が使った言葉を拝借したものであるが、設立11年目にして、やっと教育支援の土俵に乗ることができた、と強く思ったからだ。しかし、これからが本当の勝負。私たちのdreamsは教科書支援に留まらない。この教科書プロジェクトをしっかりと軌道に乗せ、それから、次の新しいプロジェクトにも繋げていきたいし、交流も深めていきたい。今回「歴史的」という言葉を書いたが、今後は、もっとたくさんの「歴史的な一歩」を刻んでいきたい。それには、まず、10月の始業式までに教科書を確実に現地の学校に届けることからだ。

今号には、「カンボジア英語教科書支援プロジェクト」に関して、プロジェクトチーム（塚本理事、Nuspliger理事、田辺さん）から、理事会で決定したプロジェクトの要項が掲載されています。読んでいただき、皆様のご協力をよろしくお願いします。

8月28日には、第37回理事会、第12回定時会員総会が開催されます。参加のご予定をお願いします。



7月2日理事会の様子

# 小さな扉、広い道

辻 莊一

イー・ドリームズは2000年7月21日設立である。まもなく満11歳になる。教育、国際、コミュニケーションをキーワードとして、様々な活動に取り組んできたが、11年を経て英語教科書支援プロジェクトで新たな一歩を踏み出すことになった。カンボジアの Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School の全生徒（生徒数1,591人）に教科書を提供する今回のプロジェクトは、金額で言えば総額970ドル（77,600円）という小さなものであるが、これから大きく発展する可能性を秘めている。その理由を列記すれば、

## 1 正式なものであること

校長とも正式文書を交わした公式プログラムである

## 2 現地のニーズに合致していること

実際に教科書がなくて困っている学生を助けることができる

## 3 私たちのやりたいことやべきことである

3つのキーワード教育、国際、コミュニケーションとぴったり合致

## 4 継続性、発展性

カンボジアの他の学校や英語教科書以外の分野に拡大できる

## 5 カンボジア側と強いつながり

多くのカンボジア人や現地の組織とのつながりがある

となる。

しかし私がもっとも可能性を感じるのは、英語教科書支援プロジェクトが「分かりやすい」ところにある。もちろん、教育用写真アーカイブ@aglanceもECAPも、明確な方法論と目的意識を持って運営し、その意義は大きく内容も素晴らしいものではあったが、今回の「英語教科書を買えないカンボジアの生徒に教科書を提供する」という今回の英語教科書支援プロジェクトは、「やること」と「その効果」がこれ以上ないというぐらい、分かりやすい。

私は10月初めの教科書提供のセレモニーに出席するために、カンボジアに行く予定である。少なくとも数日は休暇を取らなければならないので、職場や関係各所で徐々に10月初旬は日本にいないことをアピールしつつある。その際どこに行くのか、なぜ行くのかを説明しなければならないことも多いのだが、その説明に対する反応が今までに経験したことがないほど強く好意的なのである。日本人外国人問わず、強い関心を持って聞き、一様に素晴らしいプログラムであるという。まだ頼んでもいないのにぜひ寄付したいと申し出る人もある。もちろん社交辞令ということもあるだろうが、職場を休んで海外に出なければならない時に同じように情報リークを繰り返してきた私には、今回の反応が違うことが、強く感じられるのである。

英語教科書支援プロジェクトは財政的には総額8万円足らずのちっちゃなものだが、今後の可能性を強く予感させる。私たちはこの小さな扉をあけて、思ったより広い道に出ようとしているのかもしれない。

# 中国人大学生の関心

井川 好二



琉球王朝 冊封使<sup>1</sup>の入城<sup>2</sup>

いつもは20名近くの大学生が、中国・江南<sup>3</sup>地区の提携大学から参加する「日本語・日本文化研修」だが、今年は3名のみの寂しいスタートとなった。

7月中旬の暑い2週間、夏休みの早く始まる中国の大学生には好都合でも、日本の大学生にとっては、期末試験前の忙しい時期。それでも、毎年奈良や京都の観光へ一緒に出かけたり、パーティに参加したり、小規模なイベントながら、私の勤める大学の国際交流プログラムの「目玉」の一つである。

やはり、原発事故の影響である。今年3月11日で東北地方を襲った大地震と大津波の影響で参加者が極端に少なくなったが、こう云う時に来てくれる中国人を大事にしようと、3人でも引き受けることにした。

<sup>1</sup>冊封使【さくほうし】中国皇帝が朝貢国の国王を任命するため遣わす使者。琉球には1404(明永楽2)武寧冊封のときの時中から1866(清同治5)尚泰冊封のときの趙新まで24回(明代16回・清代8回)派遣された。【岩波日本史辞典】

<sup>2</sup> <http://marukoma.ti-da.net/c103686.html>

<sup>3</sup> 長江下流南側の地。江蘇・安徽省南部と浙江省北部を含む。広く、長江以南の地方を指すこともある。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

今年も当初は10数名の参加申し込みがあったらしい。しかし、一人減り二人減りして、最後は大学院生2名と学部3年生1名だけになってしまったと云う。「放射能汚染で危険な日本へは行かないでくれ」と、親に泣いて頼まれると従わざるをえない。いわゆる「風評被害<sup>4</sup>」の一種とも云えるが、大学生のほとんどが一人っ子である中国の現状を考えれば、さもありなんとも思える。

その3名の中国人学生と話す機会があった。

初来日とは云いながら、3人ともちゃんとした日本語を話す。中でも、大学院生は既に5年間、みっちり日本語を勉強しているだけに、いささかbookish<sup>5</sup>ではあるが、日本語運用能力はかなり優れている。

その大学院生の一人に、何の勉強をしているのときくと、「ミンコク時代のガホウの研究をしています」と云う返事が返ってきて、理解に困った。その「ミンコク」と「ガホウ」の意味が分からない。

SLAで云う“negotiation of meaning”をして、つまりあれこれ質問をして、やっと、彼女の発言がComprehensible Output<sup>6</sup>、つまり「理解可能な発話」になった。

「ミンコク」とは、「中華民国<sup>7</sup>」のことであり、「ガホウ」とは「画報<sup>8</sup>」のことである。

「あっそうか、画報って、グラビア<sup>9</sup>のことか」

「そうですよ、英語も分かります」

---

<sup>4</sup>メディアによって流された情報が、事実の有無に関わりなくひとり歩きを始め、一つの風評として世間に定着することからこうむる被害のこと。[明鏡国語辞典]

<sup>5</sup> 堅苦しい、文語的な; 学者臭い.[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]

<sup>6</sup> ...output that extends the linguistic repertoire of the learner as he or she attempts to create precisely and appropriately the meaning desired. Comprehensible output...is a necessary mechanism of acquisition independent of the role of comprehensible input. Its role is, at minimum, to provide opportunities for contextualized, meaningful use, to test out hypotheses about the target language, and to move the learner from a purely semantic analysis of the language to a syntactic analysis of it (p. 253). Swain, M. (1985). Communicative competence: Some roles of comprehensible input and comprehensible output in its development. In S.M.Gass, & C.G.Madden (Eds.), *Input in second language acquisition* (pp. 235-253). Cambridge, MA: Newbury House.

<sup>7</sup> ちゅうか - 민국【中華民国】辛亥革命の結果清朝が倒れた後、1912年中国最初の共和制政体として成立した国。初代大総統袁世凱えんせいがい。28年中国国民党が国民政府を樹立、全国を統一したが、第二次大戦後共産党との内戦に敗れ、49年本土を離れて台湾に移った。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

<sup>8</sup> 絵や写真を主とした本・雑誌。【株式会社岩波書店 広辞苑第六版】

<sup>9</sup> gra·vure【印】グラビア印刷, 写真凹版印刷 (=photogravure); グラビア(印刷物[版]).[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]



橋本雅邦「溪山雲霧」(けいざんうんむ) 1897年頃(明治30頃)<sup>10</sup>

「ミンコク」にしても「ガホウ」にしても、ちゃんとした日本語の単語であり、その発音も決して解りにくいものではなかったのだが、「日中交流史」を学ぶ中国人大学院生との会話と云うコンテキストから、こうした単語を想像できなかつた私の不徳の致す所である。

しかし、「ミンコク」と云われて「明国」を思い、「ガホウ」と云われて「橋本雅峰<sup>11</sup>」がまず思い浮かんでしまった私には、明<sup>12</sup>の影響をうけた江戸時代の南画<sup>13</sup>の伝統を、雅峰がどのように研究していたのだろうか？頭の中が疑問符だらけになってしまった。ことほどさように、予断を持って異文化コミュニケーションに臨むのは誠によくないのである。

もう一人の大学院生は、「東アジアの国際交流史における琉球<sup>14</sup>の役割を研究しています」と云う。こっちは、比較的スムーズに理解できた。

「ほう。沖縄は中国や台湾と関係が深かつたからね」

「そうですね。朝鮮との関係も面白いです」

<sup>10</sup> <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/www/contents/1196839075394/index.html>

<sup>11</sup> はしもと - がほう【橋本雅邦】日本画家。本名、長郷。江戸に生まれ、狩野勝川院雅信に学び、勝園雅邦ただくにと号す。東京美術学校教授として横山大観・下村観山・菱田春草らを指導。岡倉天心とともに日本美術院を創設する。作「白雲紅樹図」「竜虎図」など。(1835～1908)【株式会社岩波書店 広辞苑第六版】

<sup>12</sup> 明【明】中国の王朝の一つ。朱元璋(太祖)が他の群雄を倒し、元を北に追い払って建国。成祖の時、国都を南京から北京に遷し、南海諸国を経略、その勢威はアフリカ東岸にまで及んだ。中期以後、宦官の権力増大、北虜南倭に悩まされ、農民反乱が続発し、李自成に北京を占領され、17世で滅亡。(1368～1644) from Wikipedia

<sup>13</sup> 日本の文人画。南宗画に由来し、江戸時代に独自の様式が大成。【株式会社岩波書店 広辞苑第六版】

<sup>14</sup> りゅうきゅう【琉球】沖縄(琉球諸島地域)の別称。古くは「阿児奈波」または「南島」と呼んだ。15世紀統一王国が成立、日本・中国に両属の形をとり、17世紀初頭島津氏に征服され、明治維新後琉球藩を置き、1879年(明治12)沖縄県となる【株式会社岩波書店 広辞苑第六版】



ここで、私の考えが未だ及ばない方向から話を進めてくる。

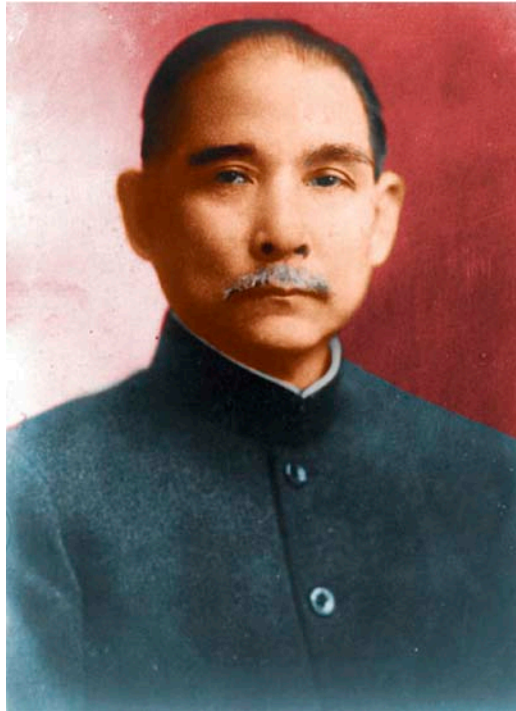
「沖縄にはいったことがある？」

「いえ、まだです」

「韓国には？」

「これから行きたいです」

逞しい学生たちである。



中華民国 臨時大統領 孫文 (1912) <sup>15</sup>

三人目の学生は今、大学3年生で、卒業後は日系の会社へ就職したいと云う。趣味は日本のアニメとアイドル。私が聞いたこともないアニメのタイトルや、アイドルの名前を、好きだと上げていた。

三人三様である。

しかし三人に共通しているのは、今までの常識が通用しなくなっていること。つまり、日中関係の研究では、より専門的な領域の研究が、多くの現場で日々進められる結果、中国の研究者たちも、より狭い範囲を深く掘り下げた研究をするか、発想の転換をはかりユニークなパラダイムを構築するかしないと生き残れないと思っている。

---

<sup>15</sup>孫文 (そんぶん、1866年11月12日 - 1925年3月12日) は、中国生まれ・アメリカ国籍の政治家・革命家。初代中華民国臨時大総統。辛亥革命を起こし、「中国革命の父」と呼ばれる。号は中山 (Zhōngshān)、字は逸仙。(別名は徳新、帝象、高野長雄、載之、日新、中山樵)。中国では前者で、欧米では孫逸仙の広東語ローマ字表記である Sun Yat-sen で知られる。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/孫文>

アニメもアイドルの世界も、細分化が進んでいる。日本人が知らないアニメやアイドルを、中国の若者たちが愛している。それほど、中国社会一般に、日本のアニメやアイドルが浸透しているのであろう。

さらに、そうした変化の媒体となっているのが、インターネットであり、ネット社会は、城山英己(2011)<sup>16</sup>も云うように、「非共産党体制」(p. 24)なのかもしれない。つまり、中国共産党の独占販売だった情報が、インターネットの普及により、ネットからも簡単に得られるようになった。そして、その2種類の情報が相反する場合もあるのである。

「日本はきれいです。日本人はみんな優しいです。日本が好きです」

と云う中国の大学生が増えている。

中国はどんどん変化している。その変化を定期的に自分の目や耳で確かめることが大切である。そして、その大きく変化する中国としっかり付き合える人材を育てないといけないと、つくづく思う。  
(Saturday, July 9, 2011)

---

<sup>16</sup>城山英己(2011)「中国一億人電脳調査：共産党より日本が好き？」東京：文春選書。

# 七月七日の朝夢

(大阪) 飯田佐恵

カンボジアの学校へのテキスト贈呈式の夢を見ました。

学校のグラウンドで全校生徒一人一人がテキストのページをめくっています。

みんなニコニコしてうれしそうです。去る5月に学校訪問した時に会った生徒や写真に写っていた生徒がいます。炎天下で暑そうです。

その後、全員がカメラに向かってテキストを掲げて振っています。笑顔の口元から白い歯が輝いています。

目が覚めました。うわー、いい夢だったなあ。

実際、今から3ヶ月後の10月初めに、e-dream-sカンボジア教科書支援プロジェクトとして、カンボジア、プノンペン市 Akkak Mocha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School でテキスト贈呈式が行われるのです。

- ・生徒たちは新しいテキストを一人一人配られた時、どんな顔をするのかな。
- ・生徒の中にはテキストのページを自分でめくるのが初めての子がいるのだろうか。
- ・英語の時間を楽しみに待つ生徒が一人でも増えるかな。
- ・親や家族にこの「教科書寄贈」についてどのように話すのかな。
- ・「家に持って帰って勉強したい」と言うくらいに家庭でも理解や余裕が出てくるかな。
- ・次の教科書改訂まで、長く使えたら良いのになあ。

このように、私は「教科書寄贈」について生徒たちに聞いてみたいことや希望がありますが、このプロジェクトを通して、この学校と長いお付き合いができ、カンボジアの現実がたくさん知ることができ、これを機に、カンボジアニーズに応えられるような教育支援活動がいろいろな形で広がっていくと信じています。体に気をつけてできるだけ多く、長く e-dream-s 活動に参加します。

# カンボジア教育支援の始まり、そしてこれから生まれるもの

塚本美紀

ワクワクすることは、いつも楽しい会話の中から始まる。初めて CamTESOL に行ったのは、2007 年 8 月の理事会でブライアンがカンボジアで英語教育の学会が開かれていると話していたのがきっかけだ。CamTESOL への参加は、遠いカンボジアが一気に近くなり、カンボジアでの教育支援の第一歩となった。その初めて参加した CamTESOL で、たまたま訪問した英語学校 ACE の玄関で立ち話をしたのがソコムで、そこからいろんなつながりが生まれてきたことは、皆さんもご存知の通りだ。

ポンルーと初めて会ったのは、今年の e-dream-s の理事会だ。ソコムが友人として連れてきてくれた。会場である大阪のたかつガーデンのロビーで、私たちにできるカンボジアでの教育支援にはどんなものがあるのか、わいわいと話したことを覚えている。そんな中で、ポンルーのお父さんが高校の校長先生をしていることがわかった。そして、そこから今年の CamTESOL ツアーの中でのポンルーのお父さんの学校への訪問と、ポンルーの家へのホームビジットが実現した。残念ながら私はその場になかったが、学校訪問をした際、多くの生徒が教科書を持っていないことがわかったと聞いている。現地の先生方とツアーに参加していた e-dream-s のメンバーが、暑いけど風が心地よくて、優しい笑顔の生徒たちがいる教室の後ろの方で、英語教科書支援プロジェクトが始まるきっかけとなる会話をしている光景が目につく。

先月、浜松で行われた理事会では、英語教科書支援プロジェクトの具体的な実施方法について話し合った。みんなで話せば、いろんな案が浮かぶ。今回は、ポンルーのお父さんが校長をしている Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School の全生徒が使用できるよう図書館に英語の教科書を寄贈する。これからこのプロジェクトを進めていく中で、いろんな場所でカンボジア教育支援についての会話がなされ、そこでいろんなアイデアが生まれてくるだろう。そのアイデアを一つずつ実現していきたいと思う

# 思いがけないカルチャーショック

笠井 進

5月初旬から3週間2年ぶりに日本に帰りました。いつもこの時期に帰るときはユタの大学生グループの日本文化研修を、四天王寺大学でお世話になるプログラムの教員引率者として来たのですが、今回は全くの私用で、関西だけでなく、東京と故郷の山梨で一週間過ごすかなり忙しいスケジュールになりました。そんな限られた日程の中でわざわざ大阪市内で私の為に楽しい会食会をして下さった、アクロスの井川、辻、飯田、山田、中川先生各位に再度心からお礼申し上げます。もっと沢山話したかった事があったのですが、それは又の機会の為に残しておくことにしましょう。

東日本大震災2ヶ月後に来た日本で遠く離れた異国では、どうしてもいまいち把握できない日本社会の現状を少しでも理解しようと、100%日本語と日本文化、社会にどっぷり浸かろうとしている自分に気がつきました。そのせいか、アメリカ人学生の引率をした時と変わらないくらい疲れてアメリカに戻ってきました。サンフランシスコの空港に着いて、入国、そしてソルトレークへの乗り継ぎ便を待っている間に自分の前を白人、黒人、アジア人、ラテン系人とありとあらゆる人種の人々が空港の従業員そして旅客として通り過ぎていく。周りも気にせず大きな声で話す旅行客の英語がなぜかとてもつっけんどで味気なく感じ、自分が全く違った遠いところに行って帰ってきたのだという本当に久しぶりのカルチャーショックに陥りました。初めて海外旅行に行く人が見る始めてみるアメリカの姿がこれだったらそれはかなりしんどいだろうと思ったり、自分もそのくらい「日本人」になりきって戻ってきたのかな～、とも思いました。

もっとしたかったこと、行きたかったところはもちろんありますが、行き先々で会った日本の人々の優しさ、親切さ、丁寧さに対する感動と感謝をしっかりと胸に収めて帰れたのがなによりものお土産でした。

厳しい暑さに向かう折皆様のご健康とご活躍を願っております。

皆 様

特定非営利活動法人 イー・ドリームズ  
代表理事 辻 荘一

## カンボジア教科書支援プロジェクトへのご協力をお願い

私どもイー・ドリームズは、日本の中学校・高校・大学の英語教師を中心的なメンバーとする NPO です。「教育」「国際化」「コミュニケーション」を通して世界に貢献することを目的とし、これまで、学校の授業で活用できる世界の写真を収容したサイトの運営や、海外研修ツアーの企画などを行ってきました。

2008 年からはカンボジアの英語教師との交流を始め、カンボジア・プノンペン郊外の学校を訪問し授業を参観した際、半数以上の生徒が教科書を持っていないことに気づきました。現地の教員に理由を尋ねると、教科書の費用は、日本円にして 1 冊 70～100 円であるにもかかわらず、経済的な問題で教科書を買えない生徒が多い、とのことでした。ご存じのように、カンボジアは長期間にわたる内戦など様々な歴史的経緯により、学齢期の子どもたちへの教育が充分に行われているとは言えない状況にあります。

社会を築いていく基盤になるのは教育です。中でも、会員に多くの英語教師を会員に持つ私どもにとっても関心の高い英語教育は、今後のカンボジアの発展に必要不可欠です。そこで私どもはまず、Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School の全生徒に英語の教科書を提供するプロジェクトを始めます。

今年 5 月にイー・ドリームズの代表がカンボジアを訪問し、Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School の校長先生と同プロジェクトについて合意し、確認書を交換してきました。今後、他の学校へも支援を広げていければと考えています。

Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School の全生徒（生徒数 1,591 名）への英語の教科書支援のため、1 口 100 円の資金提供へのご協力をお願いします。

1. Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School の全生徒（生徒数 1,591 名）への英語の教科書の支援を行います。
2. 教科書 1 冊 100 円として、1 口 100 円の資金提供（募金）をお願いいたします。
3. 集まった資金で英語の教科書を購入し、学校の図書館に配置し、生徒への貸与を行います。
4. イードリームズ代表理事及び会員が 10 月初めに開催される Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School での「教科書贈呈式典」へ参列し、教科書を贈呈します。

# 「CamTESOL2012 ツアー」募集要項

塚本美紀

1. 日程： 2012年2月24日（金）～2月27日（月）
  - (1) カンファレンスは2月25日（土）、26日（日）に実施される。
  - (2) 2月24日(金)に実施される site visit に参加したい場合は、23日(木)に出発する必要がある。
  - (3) カンファレンスの前後に、以下のプランを計画中。
    - ① プノンペン市内観光。
    - ② 教科書支援プロジェクトを実施する学校を訪問。
    - ③ プノンペン市内または郊外の村でのホームビジット。
  
2. 費用： 120,000円程度  
(航空券、宿泊費、食費、現地での交通費、カンファレンス参加費等)
  
3. 実施の流れ
  - (1) 2011年 7月10日(日)： 参加者募集
  - (2) 2011年 8月14日(日)： 参加申し込み締め切り
  - (3) 2011年 8月28日(日)： 発表グループ編成
  - (4) 2011年 9月11日(日)： 発表の申し込み（9月15日締め切り）
  - (5) 2011年10月15日(土)： 発表決定通知
  - (6) 2012年 1月上旬： 発表内容披露（ACROSS 冬合宿にて）
  - (7) 2012年 1月 9日(月)： 参加登録（1月16日締め切り）
  - (8) 2012年 2月12日(日)： 発表最終打ち合わせ
  
4. 申し込み方法  
以下の点について、8月14日(日)までにメールで塚本美紀([tsukamoto@e-dream-s.org](mailto:tsukamoto@e-dream-s.org))に送る。
  - (1) 氏名
  - (2) メールアドレス
  - (3) 連絡先（携帯電話など）
  - (3) カンファレンスで発表したいものがある場合はそのテーマ
  
5. 問い合わせ先  
塚本美紀([tsukamoto@e-dream-s.org](mailto:tsukamoto@e-dream-s.org))

## お知らせ

### 第 37 回 e-dream-s 理事会

日時：8月28日（日）10：00～11：30

会場：大阪市立城北市民学習センター・研修室3  
（大阪市旭区高殿6丁目14番6号）

### 第 12 回 e-dream-s 定時会員総会

日時：8月28日（日）15：00～16：30

会場：大阪市立城北市民学習センター・講堂

編集後記： やっていることが形になっていくことは楽しい。私たちは小さな地味な団体だけれど、知恵を出し合って、勇気を出して行動し、温かい気持ちを持って人と繋がってきた。会員であることを誇りに思い、これからも活動していきたい。（岡田かおる）